

一般社団法人日本体力医学会評議員申請要項

令和2年度より評議員選考内規が下記のように改定され、選考基準が若干緩和されました。また評議員推薦書の書式も若干簡略化されましたので、お目通しの上評議員の資格を満たすと思われる候補者についてはぜひとも奮って推薦・申請いただくようお願い申し上げます。

なお、とくに女性評議員の比率増加に努めておりますのでご協力の程よろしくようお願い申し上げます。

I. 申請資格：下記、評議員選考内規をご参照下さい。

◎日本体力医学会評議員選考委員会評議員選考内規

昭和62年10月7日改定
平成6年11月18日改定
平成24年7月20日改定
平成28年8月26日改定
令和2年2月21日改定

1. 評議員候補者は、通算7年以上の正会員歴を有していなければならない。
2. 評議員候補者は、7年以上の研究歴を有し、体力医学、運動生理学、スポーツ医学などに関する十分な研究業績の著書、学術論文などの業績発表を有していなければならない。
3. 評議員候補者は、評議員3名の推薦をうけて、入会年月日を明記した履歴書および業績目録を添えて、評議員会開催2カ月前迄に評議員選考委員会に申請しなければならない。
4. 日本体力医学会の学会運営に必要と認められるものは、必ずしも上記条件を満たしていなくとも評議員選考委員会の議を経て、その推薦により評議員候補者となることができる。
5. 評議員選考委員会は、推薦された評議員候補者を審議し、評議員の資格を有すると認められたものを、理事会へ報告し、評議員会に推薦する。

付 則

- 1) 体力医学に関係する領域の学会で評議員を務めるかこの領域で博士の学位を取得しており、内規2を満たす研究歴と研究業績を認め、本学会の正会員歴が4年以上継続している場合には、評議員に推薦することができる。
- 2) 日本体力医学会より授与された日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を有しており、内規2を満たす研究歴と研究業績を認め、本学会の正会員歴が4年以上継続している場合には、評議員に推薦することができる。
- 3) 研究業績については、原則として、体力医学に関係する審査を受けた学術論文（原著論文、総説、短報、など）を筆頭著者として3編以上発表していることを基準として、評議員選考委員会で審議する。
- 4) 体力医学に関係する学会の学術大会等で大会長や組織委員会等より指名を受けた指定演題（特別講演、シンポジウム等）の口演発表を行った場合には、付則3)の審査を受けた学術論文の1編と同等の研究業績として評価し、評議員選考委員会で審議する。
- 5) 申請書類の送付先は 一般社団法人 学会支援機構内 日本体力医学会評議員選考委員会とする。

II. 申請手続きについて

下記書類をHPの評議員申請 (<http://www.jspfsm.umin.ne.jp/councilor/index.htm>) からダウンロードの上、ご記入・ご提出下さい。

- 1) 評議員推薦書（評議員3名の氏名と会員番号が必要です）
- 2) 履歴書

3) 研究業績

申請書類の書式に不備があると審査不可として再提出を依頼する事があるので、規定に則て正確に記載して下さい。

Ⅲ. 承認までの流れについて

- ① 評議員申請書受付締め切り：2023年7月20日
- ② 提出期間満了後に評議員選考委員会で確認・選考を行う。
- ③ 同年9月に開催予定の理事会および評議員会総会において報告・承認を行う。

■ 申請書提出先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 ユニゾ小石川アーバンビル 4階
学会支援機構内
一般社団法人日本体力医学会評議員選考委員会
Tel：03-5981-6015（学会専用） Fax：03-5981-6012（学会支援機構）
E-mail：jspfsm@asas-mail.jp

評議員選考委員会 委員長 大野 誠

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2022年11月）議事録

日 時：2022年11月18日（金）午後5時30分～7時10分

場 所：ZoomによるWeb会議

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、碓井外幸副理事長、

赤間高雄、井福裕俊、太田 真、大野 誠、

後藤勝正、小山勝弘、下光輝一、新開省二、

須田和裕、須永美歌子、竹森 重、

田中喜代次、成田和穂、宮内 卓、宮川俊平、

和気秀文各理事、

井上 茂、清田 寛、定本朋子各監事、

小橋 元第77回大会長、

松山郁夫第78回大会長、

山津幸司第78回大会事務局

欠席者：西平賀昭副理事長、武政 徹常務理事、

栗原 敏、中里浩一、永富良一、浜岡隆文、

前田清司各理事、小林康孝監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会終了時までに訂正等がなかった場合には、自動的に承認されることにした。

2. 選挙管理委員会について（鈴木理事長）

選挙管理委員会業務執行役の西平理事が欠席であったため、西平理事に代わり、鈴木理事長から報告があった。

資料に基づき、選挙管理委員会の構成が提示され、承認された。

委員長：須田和裕

委員：武政 徹、前田清司

3. 選挙方式の選択について（鈴木理事長）

鈴木理事長より、2023年に行われる体力医学会役員選挙について、資料に基づき、従来のマークシート方式から、オンラインによる投票での選挙実施方法を事務局から提案された旨、説明があった。オンライン投票機能システムを用いた場合、従来のマークシート方式に比べ、選挙費用は4分の1程度になることと、パスワード保護されたファイルで投票結果を確認するため、選挙管理委員が開票会場に集まる必要が無く、費用の削減および選挙管理委員への負担が軽減される等の利点が説明された。続いて、事務局より、資料に基づき、オンライン投票機能システムの概要の説明があった。

審議の結果、従来のマークシート方式から、このオンラインによる投票機能を使用し、選挙を行うことが承認された。

4. 役員選挙日程について（須田選挙管理委員長）

資料に基づき、2023年に行われる、オンラインによる投票機能を使用した場合の選挙日程について説明された。理事候補、評議員会長候補及び監事候補の選出等に関わる定款、定款施行細則と役員を選出に関する規程が説明され、理事・評議員会長・監事の選挙後に、

理事長・副理事長・常務理事の選挙を行うことが確認された。また、選挙開票後から内諾期間を一ヶ月間設けているとの説明があり、2023年の選挙日程が承認された。

5. 会員数減少抑制対策について（鈴木理事長）

2021年8月27日定例理事会より継続審議されている会員数減少抑制対策について、資料に基づき、各年度の学会会員数、学会誌の原著論文投稿数の推移について説明があった。減少傾向にある学会会員数を鑑み、退会者数を減らす具体的な方策に特化した委員会を立ち上げるため、学術委員会、渉外委員会、広報委員会の各委員長と、編集委員会の委員長及び副委員長をコアメンバーとした、「会員数減少抑制対策検討委員会」の発足が提案され、承認された。尚、この委員会の活動は、2023年定時社員総会の終結の時までとした。

6. シニア会員候補者について（鈴木理事長）

武政総務委員長が欠席であったため、武政総務委員長に代わり、鈴木理事長から報告があった。

資料に基づき、シニア会員の申請資格対象者が報告され、審議の結果、承認された。昨年同様の通知方法により、事務局から「シニア会員のご案内」を対象者へ個別メールまたは郵送にて連絡を行うこととなった。

7. 評議員申請書改訂について

（大野評議員選考委員長、後藤編集委員長）

後藤編集委員長より、先般の学会誌「体力科学」・「JPFMS」の編集業務の中で、査読辞退が続き、査読者の確保が困難な状況となっており、今後、投稿数の減少および発刊維持が困難になる等の事態に陥りかねない旨、説明があった。これについて、編集委員会で打開策を検討し、評議員申請書に学会誌の査読を受けることを要件にした項目を記載することが提案された。これについて、大野評議員選考委員長より、評議員選考委員会で申請書の改定の審議を行い、承認されたことが報告された。この評議員申請書改訂について、本理事会で審議され、承認された。改定された評議員申請書の施行日は11月19日とした。また、現評議員への査読に関するお願いとその具体策については、評議員会長と編集委員会で検討することとなった。

8. その他

1) 第100回記念日本生理学会シンポジウムについて（和気理事）

2022年10月14日でのメール審議で承認された、来年3月に開催される「日本生理学会第100回記念大会」での当学会共催シンポジウムについて説明された。

2) 第31回日本医学会総会資料について（下光理事）

第31回日本医学会総会の当学会登録推進委員会である下光理事より、事前に配布されたリーフレットに基づき、本会の開催概要について説明された。

3) インボイス制度について（事務局）

資料に基づき、2023年10月から実施される「インボイス発行事業者」（適格請求書発行事業者）について、登録へのメリット及びデメリットが説明され、適格請求書発行事業者への登録申請をすることが承認された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 編集委員会（後藤編集委員長）

資料に基づき、「JPFMS」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況が報告された。

1. 「JPFMS」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況 <投稿状況>(2022年9月1日～2022年10月31日)

「JPFMS」誌：新規投稿9編

※前年同期間：新規投稿16編（内海外4編）

10/31現在、審査中10編(2022/1/27～10/31投稿分)

「体力科学」誌：新規投稿5編

※前年同期間：新規投稿8編

10/31現在、審査中7編(2022/7/6～10/31投稿分)

<掲載予定>

「JPFMS」誌

○Vol. 11, No. 6（2022年11月25日発行）

Proceedings476編（予稿集掲載分674編）

○Vol. 12, No. 1（2023年1月25日発行）

Regular Article 4編

「体力科学」誌

○Vol. 71, No. 6（2022年12月1日発行）

原著6編

○Vol. 72, No. 1（2023年2月1日発行）

大会指定演題

○Vol. 72, No. 2（2023年4月1日発行）

原著3編，資料2編

2. 研究倫理に関するガイドライン改正に伴い、「体力科学」投稿規定改訂（2022年9月13日）

3. JPFMS「J-STAGE Data」利用開始，HPでお知らせ（2022年9月22日）

2) 渉外委員会（和気渉外副委員長）

資料に基づき、渉外委員会の活動進捗状況が報告された。

1. 学会HPでの渉外委員会所掌の学術交流支援活動の年間計画の紹介

(ア) 国際学術交流

1) 国際学術交流奨励賞

2) 国際学会交流事業

3) ECSS交流事業

(イ) JSPFSM-ECSS Exchange Symposium

2. 韓国運動生理学会交流事業

3. その他の国際学会との連携・交流

(ア) 国際生理科学連合（IUPS）

(イ) アジアオセアニア国際生理学連合（FAOPS）

(ウ) アジアスポーツ科学会議（ACCESS）

(エ) アジアスポーツ医学連盟（AFSM）

(オ) 国際スポーツ医学連盟（FIMS）

(カ) その他

4. 主要関連国際学術団体の紹介

(ア) 渉外委員会として推奨する国際学術集會を

紹介する。

ACSM, ECSS, ISPAH, IBEC, IUPS, FAOPS, IPE, IBE, ISBNPA, BASEM, ASN, FIMS, ACCESS, ASK その他。

(イ) 国内学術交流

1) 日本医学会連合TEAM事業「フレイル・ロコモ対策会議」企画

「フレイル・ロコモを予防する：80GOの実現へ向けて」

2) 日本生理学会の合同シンポジウム企画

3) 国際学術交流

4) 国際学術交流奨励賞 今年度より再開

①2022年4月～2023年3月31日までの国内外で開催された国際学会（5カ国以上が参加する学会）での発表を評価

②筆頭演者としてオリジナルな演題を発表している若手を中心とする学会会員

③最優秀賞1名，優秀賞3名（口頭30万円，20万円，ポスター15万円，10万円）

④5月締め切り後，2ヶ月で審査選考を実施。

5. 2023 ECSS JSPFSM-ECSS交流シンポジウムシンポジスト推薦決定

(ア) 中京大学 紙上敬太先生（座長・演者）

シンポジウムタイトル：

Complex effects of acute exercise on cognition

演者：紙上敬太（中京大学），Sebastian Ludya（Basel大学），Lauren B. Raine（Northeastern大学）ECSSで企画が採択された場合，学会として会員を支援

6. 韓国運動生理学会交流事業

日時：4月7日（金）～8日（土）

場所：檀国大学校（天安）

7. AFSM アジアスポーツ医学連盟Executive Committee 2022.12.17（Hong Kong）

渉外委員会委員長が対応予定。

2. 第77回（栃木）大会の進捗状況（小橋第77回大会長）

小橋大会長より、第77回大会の以下の事項について報告された。

・参加人数：1,325名

・発表演題数：678題

・シンポジウム：32セッション

・特別企画：7講演

尚、大会開催費用については支払いを済ませ、公認会計士による監査終了後、次回理事会で大会の収支報告をする予定である。

3. 日本体力医学会2023年東京シンポジウムについて（鈴木理事長）

前田大会事務局長が欠席であったため、鈴木理事長より、資料に基づき「日本体力医学会2023年東京シンポジウム」の進捗状況が報告された。

4. 第78回（佐賀）大会の進捗状況（松山第78回大会長）

大会事務局の山津幸司氏より、大会の準備状況について報告された。

第35回日本体力医学会北陸地方会のご案内

開催日 2023(令和5)年6月11日(日)

日程概要

9:30～ 参加者受付

10:00～10:10 開会挨拶

10:10～11:30 特別講演

講師：河野史倫

(松本大学大学院健康科学研究科 教授)

演題：未定（運動が引き起こすエピジェネティクスと骨格筋における運動効果獲得に関する内容の予定）

11:30～12:30 昼食休憩・懇親会

12:30～13:20 社員総会

13:30～15:00 シンポジウム：ライフステージと運動の意義（仮題）

15:15～16:15 一般口演（研究発表）

16:20～16:50 ポスター発表（研究発表）

16:50～17:00 表彰・閉会挨拶

場 所 金沢大学角間キャンパス 総合教育棟
A1講義室（予定）

〒920-1192 石川県金沢市角間町

Tel：076-264-5946

【お断り】現時点で上記の通り対面開催を計画していますが、COVID-19感染拡大等の状況に至った場合は社会情勢を踏まえて大会内容を変更または中止する可能性がありますことをご了承下さい。

参加申込 申込締切：2023年5月14日(日) 17時

以下のリンクまたはQRコードに掲載する「第35回日本体力医学会北陸地方会大会 参加申込フォーム」をご利用の上、お申し込み下さい。COVID-19下において大会参加者を確実に把握するため、可能な限り事

前の参加申込をお願いします。COVID-19の感染状況によっては、大会当日の参加申込を受付致しかねない場合があります。

一旦「参加申込フォーム」を送信した後、参加を取り止める場合は、大会前日の**6月10日(土) 正午12時**までに大会事務局（shiba-t@staff.kanazawa-u.ac.jp）へ電子メールにてご連絡願います。

リンク：<https://forms.gle/aQadZ3pM7vunBWGD6>

QRコード：



※本大会は健康運動指導士・健康運動実践指導者の登録更新認定講習会として、(公財)健康・体力づくり事業財団へ申請する予定です。また、一般口演において、令和5年12月31日時点で39歳以下の発表筆頭者を対象に『若手優秀研究発表賞』の創設・授与を予定しています。

参加費 1,000円（軽食代を含む。大会当日に受付にて申し受けます）

発表方法

一般口演：発表時間15分（発表10分、討論5分）、MS-PowerPointによるスライド映写の予定。

ポスター発表：フリーディスカッション30分の予定。

照会先 大会事務局 芝口 翼（しばぐち つばさ）

金沢大学 国際基幹教育院GS教育系

運動生理学研究室

E-mail：shiba-t@staff.kanazawa-u.ac.jp

〒920-1192 石川県金沢市角間町

Tel：076-264-5946

第31回（一社）日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内

（一社）日本体力医学会学術委員会主催の本研修会は基礎コースと応用コースに分かれ、それぞれ2日間、講義と実習を行います。実習は救急救命法、健常者や生活習慣病罹患者に対する運動処方、傷害予防・機能回復の筋力トレーニングおよびテーピングなどです。アスリートを対象とした研修内容ではありませんのでご注意ください。

全てのコースを受講して修了試験に合格し、所定の手続きをとると「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号を受けることができます。

称号取得を希望される方は、（一社）日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

この研修会には（一社）日本体力医学会非会員の方も参加できます。また、他の研修会を受講し、資格や称号を取得された方で、それらの更新に必要な認定単位取得のために本研修会を受講されても結構です。受講証明書を発行いたします。さらに受講者には本研修会のテキストとともに副読本として「医師・コメディカルのためのメディカルフィットネス」（社会保険研究所発刊、（一社）日本体力医学会著・編）を無料で配布します。

尚、実習を行う関係上、各年度の参加人数に制限がありますことをご了承下さい。

令和5年2月3日

（一社）日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会

中里浩一 岡本孝信 須永美歌子 進藤大典 太田 眞 燕木智子 清水智美 宇高 潤

1. 会 場

日本体育大学東京世田谷キャンパス、各教室および中央測定室など

2. 日時および研修内容

（I）基礎コース

運動生理学やスポーツ医学等の基礎的事項を前提に、さらに進んだ生理学（神経・筋、呼吸、循環、代謝など）や栄養学および運動処方の基礎などを中心に学びます。

2023年7月1日（土）

9：00～10：40	オリエンテーション、有疾患者に対する運動療法の考え方（含COPD、腎症）
10：40～10：50	休 憩
10：50～11：50	高次脳機能と運動 – 認知症予防のための運動など–
11：50～12：50	筋骨格系組織と運動 – 寝たきり予防のための運動など–
12：50～13：50	昼 食・休 憩
13：50～14：50	循環と運動
14：50～15：50	幼児期および成長期における運動指導について
15：50～16：00	休 憩
16：00～17：00	運動、栄養、生活習慣病予防について
懇親会（会費3000円、参加自由）	

2023年7月2日（日）

9：00～10：30	運動処方の基礎
10：30～10：40	休 憩
10：40～12：10	運動器疾患に対する運動療法
12：10～13：10	休 憩
13：10～14：40	心血管系疾患の運動処方および服薬者の運動時注意点
14：40～14：50	休 憩
14：50～16：20	メタボリックシンドロームに対する運動療法

(II) 応用コース

基本的な運動指導の実際について学びます。実習では自転車エルゴメータによる運動負荷試験をもとに運動処方を作成します。また、呼吸機能検査、体組成測定法、テーピングや筋力トレーニング実習も行います。

2023年8月18日(金)

- 9:00~12:00 運動処方実習 (a) (トレッドミルおよび自転車エルゴメータを利用した運動負荷試験, 心電図記録, 呼吸機能検査, 乳酸測定など)
- 12:00~13:00 昼食・休憩
- 13:00~17:00 運動処方実習 (b), 尿検査, 体組成測定, 筋力/筋パワー測定など

2023年8月19日(土)

- 9:00~12:00 運動処方の実際 (前日の運動負荷試験で得られたデータを基に各被験者の運動処方を作成し, 実施する)
- 12:00~13:00 昼食・休憩
- 13:00~17:00 スポーツ傷害予防実習 (テーピング, 筋力/筋パワートレーニング, 救命救急実習)

3. 修了試験と称号について

基礎コースおよび応用コースの両コースを受講した方は、所定の修了試験を受験することができます。修了試験は2023年8月20日(日) 10:00~12:00に日本体育大学東京世田谷キャンパスで行います。修了試験の合格者には合格証を発行いたします。また、修了試験合格後、所定の手続きを経て、日本体力医学会健康科学アドバイザー®の称号を取得することができます。

※「日本体力医学会健康科学アドバイザー認定試験過去問集(正解/解説付)」(税込:2,000円)がありますので、是非ご利用下さい。下記の「9. 申込書送付先および問い合わせ先」へお申込み下さい。

4. テキスト

担当講師が用意した講義資料を簡略なテキスト化し、それに準じて講義が行われます。また、プレゼンテーション資料も必要に応じて当日配布致します。

5. 受講料

受講料は(I)基礎コース、(II)応用コースおよび修了試験の全てを受講する場合は50,000円、単科コース(基礎コース、応用コースの各コースを単独受講)を受講する場合はそれぞれ25,000円(2日間コース)です。2コースの受講を原則としますが、定員に余裕があれば、単科コースの受講も可能です。その年度に受講しなかったコースを次年度以降に受講すれば、全コース受講後修了試験を受験することができます。尚、学生受講者は30,000円(基礎・応用コース)と致します。ただし学生証の呈示が必要です。

6. 受講資格と定員

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが、2コース受講後に行われる修了試験に合格し「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号取得申請を希望する方は(一社)日本体力医学会会員でなければなりません。但し、自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は(一社)日本体力医学会会員になる必要はありません。

定員は各コース40名です。

7. その他

健康運動指導士、健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位(60分1単位)について、基礎コースでは講義11.5単位、応用コースでは講義0.3単位および実習12.7単位がそれぞれ認定される予定です(2023年4月申請予定)。ま

た、THP（トータル・ヘルスプロモーション・プラン）のレベルアップ研修における基礎コース5単位、応用コース5単位が認定される予定です（2023年4月申請予定）。

8. 申し込み方法

本研修会受講希望者は、葉書またはFAXで、（一社）日本体力医学会スポーツ医学研修会を受講したい旨を下記までご連絡下さい。仮申込受付後、申込書類をお送りいたしますので、要領に従いお申込下さい。なお、申込に際し、受講料をご案内の口座に2週間以内にお振込み下さい。お振込みをもって正式な申し込みとさせていただきます。定員に達し次第、締め切らせていただきますのでご了承下さい。受講票、受講料などの連絡は、受講通知とともに後日ご案内させていただきます。

なお、申し込みが20名に満たない場合には中止させていただきますのでご了承下さい。その時には受講料を払い戻しますが、本人都合による返金には応じられませんので、あらかじめご了承下さい。

※本学会ホームページの“お知らせ”にある、「スポーツ医学研修会」および「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」を確認し、手続きの参考にしてください。

9. 申込書送付先および問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13ユニゾ小石川アーバンビル4F
 一般社団法人 学会支援機構内
 （一社）日本体力医学会スポーツ医学研修会 係
 電話：03-5981-6015 FAX：03-5981-6012
 E-mail：jspfsm@asas-mail.jp

第31回（一社）日本体力医学会スポーツ医学研修会仮申込書

下記の通り、研修会の受講を申し込みます。（該当する□にレ印をつけてください。）

- 第31回 基礎コース
- 第31回 応用コース
- 試 験

氏 名 _____

連絡先 〒 _____

TEL： _____ E-Mail： _____

第44回バイオメカニズム学術講演会 (SOBIM2023 in 北九州)
 ～人間中心社会の躍進を支えるバイオメカニズム～
 － 開催案内 －

主催：バイオメカニズム学会
 会期：2023年11月25日(土)～11月26日(日)
 会場：北九州国際会議場
 (福岡県北九州市小倉北区浅野3-9-30)

北九州国際会議場のホームページ：
<https://hello-kitakyushu.or.jp/kokusai-kaigi/>

● **実行委員会**

実行委員長 坂井伸朗 (九州工業大学)
 副実行委員長 木口量夫 (九州大学)
 プログラム委員長 小村 啓 (九州工業大学)
 実行委員 池田 毅 (山口東京理科大学)
 菊池武士 (大分大学)
 中島康貴 (九州大学)
 福永道彦 (大分大学)
 瀧 雅子 (九州栄養福祉大学)
 本田功輝 (九州大学)

Web担当 長濱峻介 (京都先端科学大学)
 2024年度学術講演会委員 (第45回学術講演会担当)
 常任理事・事業担当 木塚朝博 (筑波大学体育系)

● **講演会内容 (予定)**

- ・ 基調講演
- ・ シンポジウム
- ・ オーガナイズドセッション
- ・ ランチョンセミナー
- ・ 一般講演
- ・ 機器展示

準備中

● **一般演題発表募集 (予定)**

講演申込締切 2023年7月3日(月)
 採否連絡 2023年8月7日(月)
 原稿投稿締切 2023年10月9日(月)

● **企業展示・広告募集締切 (予定) 2023年10月9日(月)**

● **事前参加登録締切 (予定) 2023年10月9日(月)**

● **会場までの交通機関**

JR小倉駅新幹線口(北口)から徒歩6分
 (動く歩道含む)

● **第44回バイオメカニズム学術講演会運営事務局**

〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1-1
 九州工業大学 機械知能工学科 知能制御
 坂井伸朗 (さかいのぶお)
 E-mail: sobim2023@gmail.com
 学術講演会WEB: 準備中 (4月上旬公開予定)

● **協賛団体 (予定)**

計測自動制御学会, システム制御情報学会, 情報処理学会, 人工知能学会, 人体科学学会, 精密工学会, 電気学会, 電子情報通信学会, 日本運動生理学会, 日本看護科学学会, 日本看護技術学会, 日本看護研究学会, 日本機械学会, 日本義肢装具学会, 日本義肢装具士協会, 日本建築学会, 日本作業療法士協会, 日本シミュレーション学会, 日本写真測量学会, 日本人工臓器学会, 日本人類学会, 日本生活支援工学会, 日本整形外科学会, 日本生体医工学会, 日本生理学会, 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本体力医学会, 日本人間工学会, 日本バイオマテリアル学会, 日本バイオメカニクス学会, 日本福祉のまちづくり学会, 日本補綴歯科学会, 日本理学療法士協会, 日本リハビリテーション医学会, 日本リハビリテーション看護学会, 日本リハビリテーション工学協会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本臨床神経生理学会, 日本臨床バイオメカニクス学会, 日本ロボット学会, 日本ロボット工業会, ヒューマンインタフェース学会, ライフサポート学会, 臨床歩行分析研究会, IEEE EMBS Japan Chapter, IEEE EMBS West Japan Chapter

編 集 後 記

「体力科学」第72巻2号(2023)をお届け致します。論文を投稿いただいた著者の皆様、ならびに大変お忙しいところ査読をご担当いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。

もう昨年のことになりますが、筆者は2022年11月にサッカーFIFAワールドカップカタール2022の日本代表チーム(SAMURAI BLUE)にスタッフとして帯同しました。1994年に初めて育成年代のサッカー日本代表に帯同し、28年間にわたり、この仕事をずっと行ってきました。その集大成として、今回、サッカー日本代表チームの一員として、世界と戦う集団の一員でいられたことは感動的であり、支えて頂いた多くの皆さんに感謝でいっぱいです。

このトップアスリートの現場に長い間関わり、日本代表チームという勝つことが最優先される環境では、エビデンスを得るような研究、いわゆるスマートな論文になるような実験プランを立てることは、とても困難です。育成年代を含め日本代表チームでは、所属チームから招集された選手たちであることや、召集される選手が合宿ごとに異なるため、前向き調査が難しいことや、勝利することが大前提であるために比較検討研究は難しく、研究を行うとしても現在の状況に関する報告のみとなってしまうことが多いことが現状です。

このようにリサーチには不向きであると考えられているトップアスリートの戦いの現場に長く関係していると、実はリサーチの種がたくさん埋まっていることに気が付きました。現場のトップアスリート選手たちや長年にわたり唯一無二のテクニックで選手をケアしているト

レーナーの方たちが考えていることや行っていることが、まったく科学的に解明されていないことが多くあります。ここには、多くの明らかになっていない真実が埋まっているように思います。

自然科学の研究者は、これまでの論文を渉猟し、研究テーマに関する歴史を知り、その上に研究プランを構築していきます。これらが学問であり、研究を行う上で最も重要なことです。しかし、研究とは無縁のアスリートや現場のスタッフが考えることの中には、これまで先人が行ってきたエビデンスとは異なる理論や内容が含まれていることがあります。この先人のエビデンスと異なる発言、結論や理論は、これまでのエビデンスからは突飛な印象を受けたとしても、その方法と結果が正しければ、そこに驚くべき真実が眠っている可能性があると感じています。つまり、現場で経験的に語り継がれていることだったり、当たり前として行われていることに対して、エビデンスを得られるようリサーチを行ったりすることは、現場へのフィードバックのみならず、これまで常識とされるエビデンスに疑問を呈する研究プランを思いつくことができるかもしれません。

研究の経歴が短いと、短絡的な思い付きの実験プランになってしまいがちで、これは良いことではありません。しかし、長年にわたり研究している研究者も、柔軟な頭を取り戻すために、現場に埋まっている宝を探すことも重要であるかもしれないと感じています。

加藤 晴康

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.72, No.2

体 力 科 学 第72巻第2号

令和5年3月25日 印刷
令和5年4月1日 発行

編集兼発行者
発行所

後藤 勝正
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas-mail.jp

編集事務局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印刷所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1
鶴岡印刷株式会社
